

2026 年 6 月 14 日（日）第 557 回・アクションから生まれる「三島の未来」

活動報告 & 今後の展望

NPO法人グラウンドワーク三島

アクションから生まれる「三島の未来」

AI技術と国際連携による環境デザインの革新

6.21 年次総会 & 出版記念講演会

総会スケジュール

- 16:00 開始 (三島商工会議所)
- 予算：約4600万円の承認

AI対話型書籍「ジャンボメッセージ」

1200万字の知見をAI化
52のメッセージを核に多言語対応

Zoom配信あり

サブスク月2000円

"議論よりアクション、走りながら考える"

世界最大級デザイン展 源兵衛川 推薦選出

グランプリ賞金
¥30,000,000

「コンクリートに魂を入れる」思想が国際的な評価へ

台湾千里歩道協会との国際連携

「水の道」「山の道」連携合意

会員20万人規模の団体と、8月の協定締結に向けて準備。三島の価値を台湾へ橋渡しする「明日にかける橋」へ。

箱根旧道視察

旅行社連携

市民参加の地域整備 & 南北活性化

竹垣の全面やり替え

冬場に伐採・乾燥させた竹とシュロ縄を使用。現場で伝統技法を継承。

土曜日実施

ボランティア募集中

中心市街地への誘引

東レアローズの選手との清掃企画など、スポーツ連携で南側を活性化。

☒ **アクションアイテム**

☐ 総会・出版講演会の運営一式 @ 渡辺氏
6月21日(日) 16:00開始、AIデモ含む

☐ 会計監査の実施 @ 遠藤氏
6月17日・18日に厳正実施

☐ 台湾連携協定の文案調整 @ 事務局
8月再訪に向けたメール協議

☐ 東レアローズ連携の具体化 @ 古谷氏
清掃イベントへの選手参加調整

未完了

準備中

NPO 法人グラウンドワーク三島の専務理事・渡辺豊博氏（ジャンボさん）が、グラウンドワーク三島の令和 8 年度の年次総会と AI 対話型・革新的書籍「ジャンボ・メッセージ」出版記念講演会の詳細、源兵衛川の 2025 年度「グッドデザイン金賞」受賞の国際的評価、台湾千里歩道協会との連携合意、市民参加による三島梅花藻の里の竹垣整備、三島市の南北地域での課題に対する具体敵な対応策について日時・会場・予算・関係者名などの事実を添えて総体的に報告した。

総会と出版記念講演会の告知

グラウンドワーク三島は、特定非営利活動法人として毎年度の総会開催が法的に義務づけられており、年度末が 3 月 31 日のため、4～6 月の 3 カ月以内に総会を実施する必要がある。

総会では前年度決算の報告と会員承認、新年度（令和 8 年度）の事業計画および予算の承認が行われる。年度予算は約 4600 万円で、事業・寄付金等

の見込みを具体的に示す必要性が強調された。監査は6月17日に幹事2名により厳正に実施され、その結果を踏まえて総会で報告される。

総会は6月21日（日）15:00から、続いて16:15より出版記念講演会を三島商工会議所1階TMOホールで開催する。Zoomでの聴講も可能でありアカウントやパスワードはグラウンドワークのホームページに掲載されている。

書籍「ジャンボ・メッセージ」は既に100冊以上が販売済みで、講演会のタイトルは「AI対話型、革新的書籍ジャンボ・メッセージに込めた三島の過去と未来」とした。

講演では、52のメッセージ（例：議論よりアクション、走りながら考える、食べ過ぎない・飲み過ぎない等）を中心に、参加者からの質問にAIが即時に答える「デモンストレーション」も行う。AIは英語・中国語にも対応し、わかりやすい回答が得られる点が強調された。

書籍を買わずとも、グラウンドワーク三島のホームページに掲載されている、二次元コードから月2000円のサブスクリプションで「沢山、質問できる」仕組みが案内された。回答は、渡辺氏の約30数年によたる知見に基づき、総情報量は約1200万字（一般的な書籍100冊分相当）に及ぶと説明された。

グッドデザイン賞と「魂を入れる」思想

源兵衛川の整備に際し、渡辺氏は「コンクリートに魂を入れる」という思想を提示。審査員から具体性を問われた際、三島の水文化（川端での洗濯、スイカ冷やし、皿洗いなど）や、ホタル・バイカモ・魚と人が共生できる親水空間への思いを「魂」と定義した。

この説明に審査員5～6名が納得して拍手し、渡辺氏は自身の環境デザイン＝「エコロジーアップ」を、その魂の具現化と位置づけた。

同時に、三島の人々が過去に川を汚してしまった反省から原点回帰し、ゴミ拾い等の現場での具体的な行動により、水の都の原風景を取り戻すべく、多彩な知恵を結集した経緯を振り返り、環境デザインの実践・具現化・実現化は、他地域・他国では容易でない難度も指摘された。

台湾歩道協会との国際連携

台湾千里歩道協会（周氏ほか職員3名）が水曜日と木曜日の2日間にわたり、三島に視察に来られた。水曜日は、源兵衛川、松毛川、境川清住緑地、三島梅花藻の里を案内し、木曜日は、朝8時から夕方まで箱根旧道を約40キロ歩いた（渡辺氏は多忙につきメンバーの室伏氏・国原氏らが同行）。

一行は「水の道」（源兵衛川）と「歴史の道」（箱根旧街道）に深く感銘。周氏は台湾の基隆（北端の港町）から伽藍尾（南端の岬）まで縦断する道を、20年かけて整備した人物で、険しい中央山脈地形を避けつつ縦のルートをつないだ困難さが語られた。

具体的な成果として、台湾千里歩道協会とグラウンドワーク三島とで、今後、「水の道」「山の道」に関する連携協定を締結することで合意。文案をメールでやり取りし、8月に再来訪のうえ提携予定。

会員が多い団体との連携は、三島への来訪（歩く・走る・温泉に入る）促進や旅行社連携による商業的な効果も見込める。単なる視察に終わらない価値の高い連携であり、三島の価値を台湾に橋渡しする「明日にかける橋」として位置づけられた。

市民参加による地域整備活動

源兵衛川では、バイカモの清掃を終え今年も少しホタルが出現。一方で竹垣の老朽化が進み、冬場（2〜3カ月前）に伐採・加工・乾燥させた竹を用いて、土曜日・6月13日に全面的なやり替えを実施する計画が告知された。

竹は水が上がる時期に伐ると腐りやすいため、冬場に伐採・乾燥が必須という知見も共有。結束には黒い「シュロ縄」を使い、濡らして強く縛る技法を現場で学ぶ。

YouTube 学習や現場の先生の指導体制も整い、曲がりを確認しながら綺麗に仕立てる作業が参加者にとって大きな達成感につながる事が強調された。

行政の応援もあるが、基本的な維持管理の継続なくして、現状の美しさは保てないとし、市民の手による維持管理の価値と喜びを改めて訴求。「ジャンボさん綺麗だね、これグラウンドワーク三島が中心になってやってきているの？」の問いに、市民主体の管理の力を誇りに思える場面が嬉しいと語った。

三島南北の地域課題と活性化策

三島市内では、日大生の生活基盤が北側に偏り、南側中心市街地（例：白滝公園、菰池、広小路の飲み屋街など）への来訪が少ない課題がある。

原因として考えられるのは、南側の家賃が高く、北側は安価（例：北は約3万円、南は約5万円、南に移ると1万円以上上昇）であることが主因の一つ。

北側（日大近隣の100円ショップ隣付近）には飲食店（さんちゃん食堂、アジサイなど）が充実し、テレビ出演歴のある店も存在。大盛りと普通が同

一価格で、ご飯おかわり無料など学生に優しい価格設定が生活圏の固定化を促している。

この偏りを是正するため、南側への誘引策として「南に住んだら 1 万円補助」といったインセンティブ案が示され、イベント連携案も議論された。

具体的には、東レアローズの選手と源兵衛川の清掃活動を企画すれば、女性ファンの参加が増えやすい事例（渡選手を一人呼んだだけで約 30 人が来訪）を踏まえ、スポーツとグラウンドワーク三島との接続を強化。

古谷智弘氏がつなぎ役を担い、東レ選手のボランティア参加（清掃など）を源兵衛川に呼び込む構想が示された。

情報発信の不足により南側への来訪機会が少ない点を踏まえ、誘導と連携を戦略的に進める必要性が強調された。